

脳神経センター長からの一言 vol.7

健康百寿のわけは

我が国の百歳以上の高齢者は、2021年は86,510人だったということです（厚生労働省資料による）。前年に比べて6,060人も増えていますから、これからもどんどん増えていくでしょう。どういう人が百寿者に多いかというと、血液型がB型の人が統計学的に有意に多いということです。これは、日本学士院賞を受賞された遠藤玉夫先生（東京都健康長寿医療センター研究所）が書かれている医学エッセーで読みました。遠藤先生とは、私たちが発見した抗神経抗体に関する共同研究でお会いしたことがあります。日本を代表する糖鎖研究の大学者なので、書かれていることに間違いはないと思います。

なぜ百寿者でB型の人が多いかという理由について、遠藤先生はB型の糖鎖の人は感染症に抵抗性があるためではないかと考察されています。これはどういうことかということ、ご存じのようにABO血液型は、赤血球膜表面に結合している糖鎖の構造の違いで分類されています。実は、このABO血液型の糖鎖は、赤血球表面のみならず、表皮細胞や消化管上皮細胞、さらには肝細胞などの実質臓器の細胞表面にも存在します。ウイルスや細菌は、細胞表面にある特定の糖鎖に結合して、細胞の中に侵入していきますから、糖鎖構造の違いは感染症へのかかりやすさに大きな影響を及ぼします。それで、B型の方は感染症に強く長生きしやすいのかと、なんとなく納得できます。我が国では、コロナ感染禍で国民皆がマスクをするようになって、死亡率はむしろ減少したということですから、感染症が寿命に及ぼす影響は大きいことがよくわかります。

僕は実はB型なのですが、九州大学神経内科の教授をしていた頃は、ものすごく忙しくてストレスフルだったにもかかわらず、風邪も引かずにほぼ休むことなく全うできましたので、感染症には強い気がします。これは長生きできそうだと嬉しくなって、この話を女房にすると、B型の方は自分勝手に自分のやりたいようにやっているから長生きなのだと言われました。確かにそれも当たっている気がします。お互い年を取ったら感染症にかからないように用心しながら好きなことをやって、健康に長生きするのが理想的ですね。

2022年8月1日
脳神経センター長
吉良潤一